

平成21年6月15日

各位

会社名 昭和ゴム株式会社
代表者名 代表取締役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 取締役総務部長 佐藤 一石
(TEL. 04-7131-0181)

ライニング事業大型受注品製作開始のお知らせ

当社ライニンググループ（高橋守雄グループ長）は、この度、大型の受注品の制作に着手いたしましたのでお知らせいたします。

1. 本件受注の趣旨

当社ゴム事業は主に、ゴムライニング事業、ゴム工業用品型物事業、食品・医療関連ゴム型物事業、ソフトテニス用ボール製造販売事業に分かれております。このうち、ゴムライニングは最も大きな売り上げを占める部門であります。ゴムライニングは金属製の缶体などにゴムを張り付けることで耐食性を与え、酸などの腐食作用のある液体、気体を缶体の中に貯蔵ができるようにする技術です。



この分野に関し弊社の歴史は古く、1926年(昭和初期)頃より主力分野として取り組んでおります。またこの分野においては第一人者として認知されていると自負しているところでございます。さらに昨年より、当社の期待される人員を配置して増員しております。すでに発表いたしました「中期経営計画2009-2011」に従いまして、この当社にとって伝統があり、技術蓄積のあるライニング部門は、今後国内外において成長を図る分野ともなっております。今回の受注、製作開始はこの戦略に則ったものになっております。

2. 製作開始の意義

これまで当社はライニングとして、ソーダ工業系、化学工業系、水処理系などに比較的強い特徴がございました。今回の製品は新しく改良し、開発いたしましたライニング用ゴム（開発担当、成田光雄課長、佐藤スタッフ）を用い、酸性度が高く、且、高温の厳しい条件下で十分に耐えうる商品となっております。今回の受注は大手製鉄メーカー様からの酸洗設備の受注となっておりますが、今後とも製鉄業界への拡販という比較的弱かった分野に積極的に進出する足掛かりになると考えております。また同時に新しい施工技術のみならず、運搬技術を当社が獲得したことも意義あることと考えております。



(上掲写真は当社柏工場内にある日本最大級のゴム加硫用の窯)

本年6月4日に開示いたしました中期経営計画におきましては、当社の成長戦略の核の一つとしてアジア進出を掲げております。今後、成長の期待される東南アジア、インドなどの地域においてはライニングの需要が伸びると予測しております。特にこの地域での製鉄所の建設計画が各地で持ち上がるなど、ライニングの中でも今回の技術にかかわる分野の成長が期待されます。この角度からも、当社の今後の成長戦略の核となる技術を獲得することができたと考えております。

これまで営業担当の加藤文雄参事の尽力で受注に至りましたが、今後、製造責任者である中村雄二課長、ゴムのエキスパートであります菅野友亮課長、期待のかかる若手であり西村スタッフが中心となりまして、新旧の力を結集して製造を安全と品質を最も重視して最後までお客様の元にお届けするべく努力してまいります所存です。



菅野課長と西村スタッフ

2. 今後の見通し

本件は当社ライニンググループの年間予算の5パーセントを超える大型受注であり、第二4半期に売上計上を予定しておりますが、すでに発表済みの業績予想の中に織り込んでおりますので、業績に与える影響は軽微であり、本受注施工開始による業績予想の修正はありません。第一四半期は厳しい経済情勢の中、当社も厳しい状況にありますが、今後とも、経営をはじめとして、全社員が一体になって、株主の皆様にお役にたてるよう、尽力して参ります。



加藤参事, 中村課長（製造責任者）, 高橋ライニンググループ長



開発担当 佐藤スタッフ, 成田課長